

TOPIC  
4

高校生の手作りかるたでふるさとを学ぶ

3  
23

白糠小と白糠高が小高連携授業

白糠高校の1年生20人が白糠小学校を訪れ、5年生17人と高校生が手作りした「しらぬか郷土かるた」を使って、町の歴史や特産品などについて学びました。

かるたは、高校生たちが自身で調べた白糠にかかわりの深い人物や歴史、伝統文化などがうたわれたもので、取り札の原画や読み札を高校生が手作りしました。

佐々木帆乃香さん（高校1年）は「小学生にかるたの内容を教えることで、より白糠の知識を深めることができました」と話していました。



すばやく札を取り合う小学生

TOPIC  
5

創立70周年を前に  
プルタブ回収

3  
23

身体障害者福祉協会がプルタブ寄付

釧路地区身体障害者福祉協会白糠分会（石田正義会長、会員38人）は、プルタブ8kgを社会福祉協議会に寄付しました。同分会は今年度、創立70周年を迎えることから、その前に何かできればと、石田会長が会員に呼びかけ約3年かけてプルタブを集めました。

寄贈式には石田会長と音喜多芳美副会長、濱野則子事務局長の3人が出席。石田会長がプルタブを社会福祉協議会の春田修吾局長に手渡しました。石田会長は「今後も継続して集めていきたい」と話していました。



社会福祉協議会で春田局長にプルタブを手渡す石田会長

TOPIC  
6

赤潮被害支援のため  
道が寄付金受け付け代行

3  
29

赤潮対策ふるさと寄付金目録贈呈式

北海道は、北海道太平洋沿岸における赤潮被害支援のため、ふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス災害支援」で寄付金の受け付けを代行し、集められた1,889,262円（48件）を町に渡しました。

この日は、役場で贈呈式が行われ、釧路総合振興局地域産業担当の漆崎卓哉部長が目録を棚野町長へ手渡しました。棚野町長は「北海道が被害を受けた各自治体を心配してくれているという気持ちがうれしい。有効に活用させていただきます」と感謝していました。



棚野町長に目録を手渡す漆崎部長（左）

TOPIC  
2

エネルギーや気候変動  
について学ぶ

3  
22

白糠小学校4年生SDGs授業

白糠小学校の4年生22人が、SDGs（持続可能な開発目標）の視点でエネルギーや気候変動について学びました。アフリカ・中南米でのエネルギー開発に携わっている国際協力機構（JICA）の久下勝也さんを招いた社会科の授業で、久下さんは二酸化炭素が増えると温暖化が進む“温室効果ガス”について説明。温暖化の影響は、自然や社会にもさまざまな影響が生じることから「二酸化炭素を排出しない社会を目指して、みんなにも頑張ってほしい」と呼びかけました。



スライドを使って説明する久下さん



井上校長（左）から説明を受けるJICA職員

TOPIC  
3

途上国の研修員を学ばせたい

3  
22

JICA職員掘削技術専門学校視察

国際協力機構（JICA）の社会基盤部資源・エネルギーグループ久下勝也課長と大道祐二郎国内協力員、北海道センター（帯広）の尾崎嘉洋国際協力推進員の3人が、掘削技術専門学校を視察に訪れました。

JICAでは、途上国から掘削技術者を招いて育成する研修を実施していることから、久下課長は「来年、研修員をここで学ばせることができれば」と期待を寄せました。井上校長は「学校が国際協力に役立つのであれば、相互協力・連携したい」と話していました。